

第1回地域価値ワーキンググループ 新聞社が展開する地域づくり

福島民報社 編集局長 鞍田 炎



2020年1月17日



福島民報社

福島県の地方紙(本社＝福島市、従業員数310人)

創刊128年目(明治25年8月1日)

本社、郡山本社のほか、県内外に11支社、15支局

発行部数24万8,695部、県内最多(2019年4月 日本ABC協会)

■福島県は3・11で一変した

2011. 3. 13 朝刊1面

2011. 3. 14 朝刊1面

日経 2011年3月14日 月曜日 2011年3月14日(月曜日) 第1938号

県民12万人避難

市内の被害状況

死者	285人
不明	1,189人
傷者	224人

福島市 死者1人

福島管内 死者60人

福島県管内 死者125人

会津若松市 死者1人

福島県管内 死者4人

いわき市 死者30人

茨城県管内 死者5人

千葉県管内 死者2人

112年(平成24年)3月14日現在 福島県管内

M.9.0に修正、世界最大級

【東京13日電】気象庁は13日、福島県沖で発生した地震のマグニチュード(M)を9.0に修正した。修正後の震源の深さは約24キロ、震源地は福島県沖、約100キロ。気象庁は、この地震は、東北地方太平洋沖地震(3月11日発生、M9.1)とほぼ同じ規模とみられる。修正後の震源の深さは、東北地方太平洋沖地震の震源の深さ(約24キロ)とほぼ同じ。気象庁は、この地震は、東北地方太平洋沖地震とほぼ同じ規模とみられる。修正後の震源の深さは、東北地方太平洋沖地震の震源の深さ(約24キロ)とほぼ同じ。

東日本大震災 水素発生、爆発の恐れ

【東京13日電】福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。

県内死者不明1400人超

【東京13日電】福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。

第二原発3号機も「炉心溶融」

被ばく者山人に

炉心溶融

第二原発も水蒸気放出か

【東京13日電】福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。福島県内、被災した原子力発電所から水素が発生し、爆発の恐れがある。

[illegible]

2011. 3. 12 朝刊1面

10版 第1936号

2011年(平成23年)3月12日(土曜日)

福島民報

巨大地震 県内45人死亡 370人不明

いわき市の小浜地区に押し寄せた津波に巻き込まれた漁船と車。同日午後3時15分ごろ

震度6強、大津波 全国死者千人超

【東京11日電】東北地方太平洋沖地震の死者は、11日午後3時15分現在、45人、行方不明者は370人に上った。死者は、福島県内45人、行方不明者は370人。死者は、福島県内45人、行方不明者は370人。

震源地と余震の分布

南相馬で潮世帯壊滅状態 津波

【南相馬11日電】南相馬市は、津波の影響で、潮世帯が壊滅状態に陥っている。津波の影響で、潮世帯が壊滅状態に陥っている。

M8.9 国内史上最大

【東京11日電】東北地方太平洋沖地震のマグニチュードは、8.9と推定された。これは、国内史上最大のマグニチュードである。

東北・関東大地震情報

東北・関東大地震の情報。東北・関東大地震の情報。

大地震で特別紙面

大地震で特別紙面。大地震で特別紙面。

首相、外国人から献金

首相、外国人から献金。首相、外国人から献金。

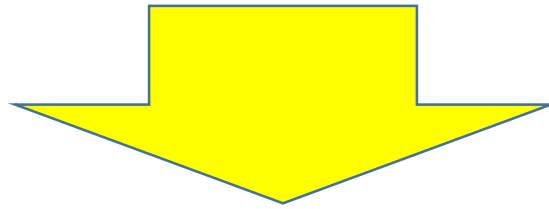
避難ガイド

避難ガイド。避難ガイド。

■震災後、何をすべきなのか

課題

- ・2011年3月11日に発生した東日本大震災、原発事故による被害回復
- ・自然減に加えた避難に伴う人口減少、企業減少
- ・少子高齢化の加速、過疎化の加速・・・



「地域づくり会社」を社是に

柱の一つが「産業づくり」・・・知的財産活用を推進

※他に「人づくり」「健康づくり」を推進中

個人、企業、団体、ものづくり支援

「ふくしま産業賞」創設

福島民報、県などと共催

福島民報社は産業やものつくりの振興により本県の活力を高めるため、県や県内の経済団体、農林水産団体などと協力し、「福島県経済・産業・ものつくり賞」（略称、ふくしま産業賞）を創設する。経営規模や経営体を問わず、優れた事業を展開する企業、経営者、ものつくりに関わる企業、団体、個人などを表彰する。受賞社（者）の取り組みを県民に紹介し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興加速を図る。八月から九月末まで募集し、平成二十八年二月に表彰式を行う。多様で意欲的な取り組みをたたえ、このうち最優秀には知事賞を贈る。

8月から募集

本県は過疎や高齢化、少子化などの課題を抱え、人口の偏在化が進んでいる。十三市の人口が県全体の約八割を占め、四十六町村の人口は二割にすぎない。このため多くの町村は働く場が限られ、人口の流出が続いている。そこに震災と原発事故が追い打ちをかけた。厳しい環境に立ち向かいながら、持続可能な県土をつくるには、地域の隅々まで産業基盤を整備することが求められる。

「ふくしま産業質」は都市部の企業活動だけでなく、豊富な森林資源を活用した産業創出、農林水産業の六次化を含む新たな事業展開、伝統工芸も応援し、住み続けられる地域づくりに目指す。

一方で本県は東北有数の工場立地県であり、高い技術力を持つ企業も多い。企業や経営者は震災と原発事故後も復興に向けてたゆ

まない努力を続けてい
る。「ふくしま産業賞」
は、こうした動きも支
援する。さらに「福島

ふくしま産業賞

▷主催＝福島民報社
▷共催＝県、県商工会議
所連合会、県商工連合
会、県中小企業団体中央
会、福島経済同友会、県
経営者協会連合会、県中
小企業家同友会、J A 福
島五連、県森林組合連合
会、県森林・林業・緑化
協会、県木材協同組合連
合会、県漁連
▷後援＝東北経済産業局
、復興庁福島復興局、
県市長会、県町村会

$$\overline{1 \ 2} \quad \overline{4 \ 5} \quad \overline{3 \ 1} \quad \overline{4 \ 1} \quad \overline{7 \ 7}$$

・国際研究産業都市イノベーション・コースト構想によって、再生可能エネルギーやロボト、関連産業の振興に期待が高まってきた。新たな試みをたたえ雇用を創出する。

同僚の対象は県内に本社があるが、県内で主たる事業を展開する企業、経営層など。六次化の取り組みをはじめ、もの「ハ」全般をみる。

P.5

- ・産業・ものづくりの振興
- ・地域資源の活用

企業活動、農林水産、
六次化、新規産業・・・
先駆的・率先している
企業・団体を表彰

社員の意識向上、
地域での認知度向上
若者の地元就職

住み続けられる地域づくり

ふくしま産業賞

說

論

本誌にとつての課題は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの影響であることだ。しかも、認めるところでは、しかし、原発事故前から少子化、高齢化、過疎という難題があったことを忘れてはならない。真の復興のために、人口減少や人口の偏在など地方が等しく抱える問題と、解決する必要がある。早稲や行政は産業・ものつくりの振興、地域資源の活用にも動く場の確保に、これまで以上に大きな関心を払っていくべきだ。

県土の隅々に「働く場」

福島民報社は本県の活力を高めるため県や県内の経済、商工業、農林水産などの各団体と協力し、「ふくしま経済・産業・ものづくり賞」(略

稱・さへ(主産業)を創設した。一日から募集を開始する。奮て応募してほしい。」

「さへ主産業」は経営規模・経営体を問はず、優れた事業を展開する企業、経営者、ものづくりに携わる企業・団体、個人などを表彰する。その取り組みを広く紹介

県土の隅々に「働く場」

「さへ主産業」は都市部、農村部、山間部、離島部の企業活動だけでなく、豊富な森林資源を利用した産業創出、農林水産業の六次化を含む新たな事業展開、伝統工芸の振興、観光産業の振興、地域づくりを目指す。一方で、大震災と原発事故からの復興加速を図る。

「さへ主産業」は経営規模・経営体を問はず、優れた事業を展開する企業、経営者、ものづくりに携わる企業・団体、個人などを表彰する。その取り組みを広く紹介

県土の隅々に「働く場」

「さへ主産業」は都市部、農村部、山間部、離島部の企業活動だけでなく、豊富な森林資源を利用した産業創出、農林水産業の六次化を含む新たな事業展開、伝統工芸の振興、観光産業の振興、地域づくりを目指す。一方で、大震災と原発事故からの復興加速を図る。

東京でも人口が集中するように県内でも人口の偏在化が進んでいる。十三市の人口が県全体の約八割を占め、四十六町村の人口は二割にすぎない。このため多くの町村は働けぬ限り、人口の流出を図る。

本県の産業・ものづくりは国内外で高い評価を得ている。日本酒は全国新酒鑑評会で金賞の銘柄数が三年連続日本一になった。英国で開かれた世界最大のワイン品評会の日本酒部門で、ほまれ酒造が世界一になった。医療機器の生産額は全国三位。ロボット産業の集積も進んでいる。忘れてならないのは豊富な林産資源、農産物などの活用

だ。建築材として注目される
CLT（直交集成板）の国内
最大級の生産工場が、県内に
設置されることになった。林
業・製材業の再生の力になる。
可能性はまだまだある。「ふ
くしま産業賞」を県民の願い
決意をかかえる足掛かりにし
たい。

（芳見 弘二）

執筆陣をホームページ (<http://www.minpo.jp/>) で紹介

■専門委員会と選考委員会の2段階評価

専門委員会・・・共催の県、各種経済団体の代表

福島県、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会、
福島経済同友会、県経営者協会連合会、県中小企業家同友会、JAグループ福島、
県森林組合連合会、県森林・林業・緑化協会、県木材協同組合連合会、
県漁業協同組合連合会

選考委員会

委員長 蛭田史郎氏(旭化成相談役)・・・いわき市出身

委員 佐藤辰彦氏(創成国際特許事務所会長、元日本弁理士会長
・・・福島市出身

小泉武夫氏(東京農大名誉教授)・・・小野町出身

西川和明氏(福島大客員教授、専門委員会座長)

福島県県商工労働部長

福島民報社編集局長

■紙面で受賞企業を盛り上げ

第1回表彰式で「世界一の産業県を目指す」と宣言

2016. 2. 20 第1回表彰式

「世界一の産業県」宣言
25社・団体の横顔

第1回ふくしま産業賞 郷土の知に光

「挑戦 世界一の産業県ふくしま」宣言

特別金利 年0.5%

お借入れ金額 300万円以上 3,000万円以内

お借入れ期間 1年

お借入れ利率 年0.5%

お借入れ期間 1年

お借入れ利率 年0.5%

FIRST KEEP 2016

お借入れ金額 300万円以上 3,000万円以内

お借入れ期間 1年

お借入れ利率 年0.5%

お借入れ期間 1年

お借入れ利率 年0.5%

2015. 1. 22 第1回紹介

25社・団体の横顔

第1回ふくしま産業賞 郷土の知に光

2015. 1. 22 第1回発表

大七酒造 (二本松) 知事賞

第1回ふくしま産業賞

光る経営技術、復興・地域貢献に榮譽

ホテル華の湯 (郡山) 民報賞

磐城高宮 (郡山) 民報賞

9月に経営統合 共同持ち株会社を設立

ダイユーエイトとリック社 (山形)

製品、独自性など審査

第1回ふくしま産業賞 選考委員会

製品、独自性など審査

第1回ふくしま産業賞 選考委員会

25社・団体の横顔

第1回ふくしま産業賞 郷土の知に光

BREITLING TAGHeuer CHANEL BVLGARI SIMM OPERA

アニバーサリーフェア 特別な日をカタチに...

2016/1/31まで

HPでも企業情報を発信中

■第3回表彰式(1～3面で連続掲載)

[illegible][illegible][illegible]

全受賞社にブース提供 → 企業同士が即座に商談
→ 共同で新商品開発・販売、事業連携へ

全受賞社にブース提供 → 企業同士が即座に商談
→ 共同で新商品開発・販売、事業連携へ

連携 新たな可能性

[illegible][illegible][illegible]

第4回表彰式
2019年2月9日付

広がる、膨らむ発想

[illegible][illegible]

ももがある (福島) & **太郎庵** (坂下)

**完熟冷凍モモ
ジェラートに**

「完熟冷凍モモ」は、福島県産の完熟モモを、特選砂糖と生クリームを配合し、特製冷凍液で急速冷凍したもので、解凍後は生モモと同等の食感と味わいを実現。完熟モモの糖度は18度以上、糖酸比は10以上と、甘みと酸味のバランスが絶妙。完熟モモの糖度は18度以上、糖酸比は10以上と、甘みと酸味のバランスが絶妙。

「完熟冷凍モモ」は、福島県産の完熟モモを、特選砂糖と生クリームを配合し、特製冷凍液で急速冷凍したもので、解凍後は生モモと同等の食感と味わいを実現。完熟モモの糖度は18度以上、糖酸比は10以上と、甘みと酸味のバランスが絶妙。



「完熟冷凍モモ」は、福島県産の完熟モモを、特選砂糖と生クリームを配合し、特製冷凍液で急速冷凍したもので、解凍後は生モモと同等の食感と味わいを実現。完熟モモの糖度は18度以上、糖酸比は10以上と、甘みと酸味のバランスが絶妙。

[illegible]

ガラス製品でコラボ

つながり
未来開く

[illegible][illegible][illegible]

第2回表彰式
2017年2月5日付

P.9

[illegible][illegible]

福島銀行の森川さんに自社製品を説明する藤澤屋の安藤さん（左）

[illegible][illegible]


■産業賞受賞企業を集めシンポジウム、セミナー
→知財啓発、マッチング促進

受賞企業が集まり、選考委員や企業代表が知財活用例を交えて意見交換
＝2018年7月5日付朝刊1面トップ



受賞企業・団体セミナー

技術生かし販路拡大



しこく 必産

発信力向上目指す

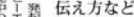
[illegible][illegible]

猪俣の一人で「ピーエー」の社長は開墾中の都島の開発を想定し、模範記者会見に臨んだ。

自分から伝えずとずる模範サレシスの特徴や社会的なメリットを準備する意識の重要性を説いた。

福島民報社の記者との質疑応答し、メディアや市民ら「模範の受け手」の立場に立った

伝え方など大演説
模範記者会見

[illegible]

2017年8月11日



絆強め事業創造

第1回 産業賞受賞企業つと

[illegible]

郡山

2017年7月 3日付

『共助』の大切さについて講演し、交流の広がりに期待を寄せた。懇親会も開かれ、相互連携などに活発に意見を交わした。福島民報社から高橋雅行社長らが出席した。

来月まで応募受け

ま産業賃」」の応募を受け付けている。八月三十一日まで。県内に本社があるか、県内で主な事業を実施している企



積極的な販路拡大、知財活用の重要性を確認した「ふくしま産業賞 産業振興特別シンポジウム」の出席者

知財活用へ認識共有

選考委員、受賞企業代表ら

體をたてたる「ふくしま経済・産業」によるもの（値）
 優れたものや先進的な要素の周りに地味な中小企業も
 實にたてる。そのうち、
 ●の選考委員：受賞企業代表による初の「ふるま産業賞」
 産振興特別シボジウムは四日、郡山市の郡山ビューホテルで
 ネックスで開かれた。人口減少等により国内市場が縮小する中、
 海外への積極的販路拡大や知財財産（知財）活用が不可欠との認識を共有した。

 ふくしま産業

◆「産業振興特別シンポジウム」登壇者

◆第1部「ふくしまからの挑戦」

太田英明氏（大七建設株式会 第1回理事役）
高橋正行氏（大七建設株式会 第2回常務理事兼奨励賞）
南條正行氏（南条建設株式会 第2回理事役）
北 良明氏（南条建設株式会 第2回理事役）
芳井一氏（日本全業工業株式会 第3回理事役）
福弘幸一氏（福島民報社専務、編集長）

（司会）西川和明氏（福島大地成創造支援センター客員
教授、「ふくしま産業祭」選考委員）

◆第2部「時代を生き抜く市場戦略」

蛭田史郎氏（旭化成相談役、ゆきわ市出身）
佐藤長彦氏（創成建設特許事務所社長、福島市出身）
小泉武夫氏（東京農業大名誉教授、小野町出身）
橋本明彦氏（県議、市労働局長）

（司会）鞍田弘氏（福島民報社編集長）

※2部のパネリスト、司会とも「ふくしま産業祭」選考委員

後援で約三百人が参加と明かした。高梁織物社、福島製紙社の高小企業でも、いかに「優雅雅行」がシブボウムの意義を説明し秀な人材を集められるた。引き続き、第一部かが海外進出の鍵」と

福島民報社は、「優れた事業を展開する企業・団体にたいえる『第四回ふくしま経済・産業・ものづくり賞』(ふくしま)

業・団体が対業の六次化ののつくり全般県内の将来

来月まで応募受けつけ

ま産業賞)」「の応募を受け付けている。八月三十一日まで。県内に本社があるが、県内で主なる事業を実施している企ため、新たに

P.10

選ばれた県内52企業のうち、ふくしま産業賞受賞は15企業。
サミットでは産業賞ブースを設け、受賞企業の力を紹介

八〇）などから数百家が参加する予定で、全国の優良中小企業が一堂に会するのは初めての。各企業が持つ優れた技術や成功事例などた情報と共有し、地域の枠を超えた新商品開発、販路開拓などにつながる。

[illegible]

河原町、サザン(河原町)
 津和野、会津藩(只見)
 アサリ、研(耶山)アポロ
 ガス(福島、第一回金賞)
 アフニ(大府)EV
 ジバ(福島)エバ
 川戸大機、電設上業(福島
 奥地屋、大府)等
 工業上業(須賀川)河天イ
 カスト業(白河)川内屋
 商店、柳津、第一回銀賞
 菊池製作所、東京都、第一
 食品(福島、第一回銀賞)
 クリノ工業(東京都)国
 見ま(福島)島
 商店(福島)グリノ発電
 会津(津和野)元アサリ
 津和野(福島)高木織物
 (山俣、第二回回事業)山

14日に若松地域未来けん引企業サミット

県内の選定企業は次の通り。かつこ内は所在地、福島民報社のふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）の受賞歴。

県内外経営者が絆

2019年西日本・四国地域会議の参加者合影。前列には関係機関の代表者、後列には各自治体の代表者が並んでいます。背景には「西日本・四国地域会議 2019」の横断幕が掲げられています。

四目開かれた地域未けん引企業サミットでは、福島民報社のふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）の受賞企業を中心とした県内の出席者が、地域活性化につながる社業の発展を願い合った。県内の企業からは全国の参加者との交流を通じ絆を深めた。

[illegible]

交流会で提供された
主なメニュー

- ・会津地鶏の有馬煮
- ・馬刺し
- ・県産ローストビーフ
- ・アワビ磯焼きとタラバガニスープ
- ・一木の会津アスパラ添え
- ・甘鯛板蒸しと会津曲がりタケノこま煮
- ・会津そば
- ・会津身不知あんば焼

2018年4月15日付

全国の来場者に取り組み紹介

が開かれた會津風情雅集館で、さしき事業協会の代表と、受賞企業の優れた取り組みを全国からの来賓

受賞企業と全国の企業との取組開始は自他共々、ふくま産業賞は福島の業務所をめぐり、受賞企業をはじめ、受賞企業の業務所や、所在地の観光地などを記入した冊子を口ビーで配布した。地域未来けん引企業に選ばれ、ふくま産業賞も受賞している十三社をそれぞれ「A」列のパネルに掲示した。熱心に冊子を目を通し、パネルに見入る業関係者の姿が現れた。

ふくま産業賞は福島県民報社主催し、これまで一回の表彰を行った。

ふくしま産業賞アピール

交流会の二ノヒは
の通り。

風評払拭と歓迎
知や幸井長
知を連つた内田雅
和理事と並んで
若井市長は、産業展
覧事務放風評を
ふつしうに
付くを、サミット
開催を歓迎し、
内閣事は本報が輝
き続けには経て
の再けが不可と
し「福の地が地域
や分野を超えた
ネットワークが
ることを期待す」と
調整は「地域経済
に力をつけるベ
国の園に集いた
た。

■企業同士の連携

■会津に完成した商業施設に 受賞企業が続々と出店、販売



大野村農園の卵でシフォンケーキを作る山本さん



特製茶わん蒸しの「山
でひとやすみ」

ふくしま産業賞受賞事業所
新たな連携 本格化

福岡県報社の筆、回すくま経済・産業・ものづくり賞（さくしま産直）受賞場所の新たな連携の取り組みが本格化してきた。

ふくしま産直特別賞の米屋企業「須賀川市」が運営する「おとぎの宿米屋」で一日金貨の大野恵司氏（相馬市）が生ずる「おとぎ料理」の提供が始まった。

一つは米の人気企画「春のわご会席」を提供する製菜わん

開通された「健康路」に育てられた「ワトリ」が産んだ素晴らしい

蒸し「山」でひやす。粥だじ汁を合せて蒸したものを上野葉のオシナルメニグの織細みれわいとミルキエツを組みあ

野菜と調剤が楽しめる一品。料理長の佐久間達也さんは「健康的に育てられた『ワトリ』が産んだ素晴らしい

天という印象を受た」と料理に手応えを感じている。

もう一品は米粉粉オンケン。甘さを抑え、アクセントに自然塩を加えた。粥の味が味われない勝ちなクレープを生かして、牛乳と生クリームを合わせた、オリギヤやおりのような性質が異なる、厨房から相手が担当の山本大輔さん「担当を責めた。」

一月「福岡市」で開催された「さくしま産直交流の席上」米屋企

2017年3月2日付

米屋企業(須賀川) 大野村農園(相馬)
ミルキー卵料理提供



ふくしま産業賞 コラボ企画

若松の塩蔵2924に出店 **ホームベーカリーコピヤマ**
あすから12日まで



塩蔵2924で自慢のパンを販売する小松山さん

会津香る無添加パン

シュトレンなど15種類

「ふしまし経済・産業・」コトマが土日で、もの「ふしまし経済（ふくしま産業）」を受けた企業・団体、会津若松市の街なか、堀込「堀込2924」にきゅう「きゅう」で自慢の味や技を披露する連携企画が九日、始まる。第一弾として、同市のホームバーカリーをはじめ、会津身不知（みふし）の柿のドラフフル、ツを地酒（「会津燗」で漬けた「燗」が入れた「燗が香るシュートレ」など）五種類を準備している。時間は四日間と午前時から午後六時まで。

堀込2924店内には、バービーなどを提供する飲食会

のパンとともに味わうこと

- 【主な出品メニュー】
- ・大納言のあんバターカンパニユ
 - ・塩バターロール
 - ・塩こんぶバターロール
 - ・アマンドショコラ
 - ・シナモンロール
 - ・会津が香るシュトーレン
 - ・スコーン



◆ ◆ ◆
塩蔵2924は、ふーしし
ま産業賞を受けた企業・団
体以外の出店も歓迎してい
る。

◆ ◆ ◆
食や衣料、工芸品など幅
広い分野の展示・販売を受
け付ける。出店期間やスベ
イス利用料などは塩蔵側と
協議する。

ができる。問い合わせは塩蔵 電話0242(93)7500へ。

2018年8月8日付

ふくしま産業賞



ふくしま産業

昭和64年
夏、あつた



昭和64年
夏、あつた

受賞企業 連携広がる

●知事賞 大七酒造



知事野宮宣孝社長上村三郎と米田社長（中）

●金賞 青木商店



酒かすを使った新タルトを作る提案

大七と酒かすタルト開発

[illegible]

第1回ふくしま産業賞受賞企業・団体			
賞	企業・団体(市町村)	事業	受賞理由
知事賞	大七建設	二子山	二子山
	栄栄堂ホリマルの場	栄栄堂	栄栄堂
	堀尾成喜	堀尾成喜	堀尾成喜
金賞	青木商店	青木商店	青木商店
	コンド電機	コンド電機	コンド電機
	アポロガス	アポロガス	アポロガス
銀賞	青森商店	青森商店	青森商店
	芳林堂製作	芳林堂製作	芳林堂製作
	佐久間建設工業	佐久間建設工業	佐久間建設工業
特別賞	ちゃんかのの・プロジェクト協議会	ちゃんかのの・プロジェクト協議会	ちゃんかのの・プロジェクト協議会
	住康建設計画	住康建設計画	住康建設計画
	A C 福島コナテッド	A C 福島コナテッド	A C 福島コナテッド
特別賞	住友ホーム大宮白河工場	住友ホーム大宮白河工場	住友ホーム大宮白河工場
	福島県 C T 推進協議会	福島県 C T 推進協議会	福島県 C T 推進協議会
	このへ	このへ	このへ
	新田建設工業	新田建設工業	新田建設工業
	福島県観光局	福島県観光局	福島県観光局
	エヌエフアイ	エヌエフアイ	エヌエフアイ
	ゆうきゅうの産業とふるさとづくり協議会	ゆうきゅうの産業とふるさとづくり協議会	ゆうきゅうの産業とふるさとづくり協議会
	野沢民衆芸術企業家組合	野沢民衆芸術企業家組合	野沢民衆芸術企業家組合
	食川建設	食川建設	食川建設
	ふくしま大宮の会	ふくしま大宮の会	ふくしま大宮の会
スナーク機構	スナーク機構	スナーク機構	
1人1事業委員会(ふくしま地区産業振興会)	1人1事業委員会(ふくしま地区産業振興会)	1人1事業委員会(ふくしま地区産業振興会)	



●金賞 コンド電機

[illegible]

産業賞ブース設置

[illegible]

■受賞企業の情報発信協力

2019年は受賞企業に出展を促し日本橋の福島県のアナテナショップ「ミデッテ」でロングランのフェアを開催



福島民報社の「ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）」を受けた県内企業が伝統工芸の技、

来月 東京で初フェア

受賞8社・団体出店 販路拡大目指す

ふくしま産業賞フェア出店者 表の印は

出店者	14日(金)	15日(土)	16日(日)	販売品など
野沢民芸品製作企業組合(西会津)	○	○	○	民芸品販売、絵付け体験
みやこじスイーツ(田村)	○	○	○	ゆいプリンリッチ、シフォンケーキ販売
GNS(二本松)	○	○	○	えごま油など販売
東北協同乳業(本宮)	○	○	○	11/19-B1乳酸菌ヨーグルト販売
出店者	21日(金)	22日(土)	23日(日)	販売品など
大七酒造(二本松)	○	○	○	清酒・リキュールの販売
渋谷レックス(福島)	○	○	○	「なつ菓子屋」販売
ホームベーカリーコピヤマ(会津若松)	○	○	○	会津が香るシュトーレン、各種パン販売
大福食品(棚倉)	○	○	○	青豆寄せ豆腐、パジャルde青豆販売

自慢の味を東京都内で初めて発信するフェアが六月、「日本橋ふくしま館MIDETTE（ミデッテ）」で開かれる。八社・団体が出店し、首都圏での知名度向上や販路拡大につなげる。

「ふくしま産業賞フェア@MIDETTE」開き、参加する企業・団体、出店日などは

電話024(531)40867。

【表の通り】野沢民芸品製作企業組合(西会津町)は、赤ペコや起し上り小法師(こぼし)の絵付け体験を行い、福島に根付く伝統工芸の魅力をアピールする。日本酒、駄菓子、パン、プリン、豆腐、ヨーグルト、えごま油など、独自の製法でふくしま産業賞に輝いた企業の商品が並ぶ。

開催時間は平日が午前10時半から午後8時まで、土・日曜日が午前11時から午後6時まで。問い合わせは福島民報社産業振興部

2019年5月31日付

自慢の味と技満載

東京で初のフェア開幕

ふくしま産業振興フェア 出店者

出店者	15日(土)	16日(日)	出店内容	
野沢民芸品製作企業組合(会津)	○	○	民芸品販売、絵付け体験	
みやこじスイーツ(田村)	○	○	ゆいプリンリッチ、シフォンケーキ、廊下ケーキ、リッチマン販売	
GNS(二本松)	○	○	えごま油など販売	
東北協同乳業(本宮)	—	—	11/19-B1乳酸菌ヨーグルト販売	
出店者	21日(金)	22日(土)	23日(日)	出店内容
大七酒造(二本松)	○	○	○	清酒・リキュールの販売
渋谷レックス(福島)	○	○	○	「なつ菓子屋」販売
ホームベーカリーコピヤマ(会津若松)	○	○	○	会津が香るシュトーレン、各種パン販売
大福食品(棚倉)	○	○	○	青豆寄せ豆腐、パジャルde青豆販売

GNSは、同じく参加希望の「たなかグループ」として参加

会津若松市 出店者



大勢の来場者にも、産品が好評で、大七酒造の「なつ菓子屋」が特に人気を集めている。大七酒造は、福島県内各地で自慢の味と技を伝えている。大七酒造は、福島県内各地で自慢の味と技を伝えている。大七酒造は、福島県内各地で自慢の味と技を伝えている。

福島民報社の「ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）」を受けた県内企業が伝統工芸の技、

「ふくしま産業賞フェア」の開催を機に、福島県内各地で自慢の味と技を伝えている。大七酒造は、福島県内各地で自慢の味と技を伝えている。大七酒造は、福島県内各地で自慢の味と技を伝えている。

東京「ふくしま産業賞フェア」

後半の部が始まる

あすまで

福島民報社の「ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）」を受けた県内企業が伝統工芸の技、



大七の試飲を楽しむ来場者（左）

2019年6月22日付

2019年6月15日付

金融機関と産業賞の連携

県内8信用金庫、城南信金と連携事業を開始。城南信金が全国200の信金に呼び掛け開催している国内最大級のBtoB・Cイベント「よい仕事おこしフェア」(毎年秋、東京国際フォーラム)で産業賞受賞企業にPRの場を提供

産業賞表彰式で城南信金理事長が支援約束



城南信用金庫(本店 成三十四年)から各地で「よい仕事おこし」

城南信金 守田正夫理事長 福島発展支援

復興への取り組みの継続を誓う守田理事長

フェアを催し、震災からの東北の復興を応援している。昨年、東京国際フォーラムで開かれたフェアには、第一回産業賞の受賞企業・団体が出展し、福島のものづくりの、高い技術力や、食文化などを全国に発信した。

2017年2月5日付

「世界一」の産業県に

「よい仕事おこし、フェア」



ふくしま産業賞 受賞企業 決意新た

県内の産業振興を目的として、毎年秋に開催される「よい仕事おこし、フェア」は、今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。このイベントは、県内各地の産業振興を目的として、毎年秋に開催される。今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。



販路拡大に手応え

「よい仕事おこし、フェア」は、県内各地の産業振興を目的として、毎年秋に開催される。今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。

2017年8月23日付

産業県躍進へ一丸

「よい仕事おこし、フェア」



ふくしま産業賞 受賞企業 決意

県内の産業振興を目的として、毎年秋に開催される「よい仕事おこし、フェア」は、今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。このイベントは、県内各地の産業振興を目的として、毎年秋に開催される。今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。



製品PRで手応え

「よい仕事おこし、フェア」は、県内各地の産業振興を目的として、毎年秋に開催される。今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。

2018年9月20日付

地方の力 全国へ



「よい仕事おこし、フェア」

県内の産業振興を目的として、毎年秋に開催される「よい仕事おこし、フェア」は、今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。このイベントは、県内各地の産業振興を目的として、毎年秋に開催される。今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。



「ふくしま」の技発信

「よい仕事おこし、フェア」は、県内各地の産業振興を目的として、毎年秋に開催される。今年も多くの企業が出展し、大盛況を収めた。

2019年10月8日付

受賞企業でもある福島銀行が他受賞企業を訪問するバスツアーを開催。応募殺到。民報社が仲介。県民が受賞企業を知る一助に

会津中央乳業(坂下)



受賞企業をツアー

第2回ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）で特別賞を受賞した福島銀行（福島市）は6月8日、銀貨の羅羅屋（会津若松市）、特別賞の道の駅あいび湯川・会津坂下（湯川村）、会津中央乳業（会津坂下町）を巡るツアーを催す。受賞を機に生まれたつながりを生かし、福島が誇る技術や食の豊かさを県民に広く知ってもらおう。

ツアーは地域の元気づくりのため同行が季節ごとに開催している「ふくぎん10大イベント」の一環。福島市と郡山市をバスで出発し、会津坂下町の会津中央乳業の工場を訪問。会津産の生乳にこ

福島銀行、来月8日

だわる同社の取り組みを学び、乳製品作りを体験する。湯川村の道の駅あいづ湯川・会津坂下で会津地方の米や野菜を使った特製の弁当を味わった後、会津若松市にある羅羅屋の工場を見学。オーダーメイドのランドセルの製造方法に理解を深める。

ツアーは2月に福島市の民報ビルで開かれた第2回ふくしま産業賞交流会での、福島銀行の森川英治社長と羅羅屋の安東裕子社長との会話をきっかけに実現した。同行地域貢献室の猪股徹也室長は「会津地方で受け継がれる伝統の技やこだわりを多くの人に知ってほしい」と話している。

技と食 知る機会に

先着順、定員40人

定員は40人で、参加料などは検討中。同行は先着順に申し込みを受け付ける。問い合わせ、申し込みはフリーダイヤル(0120)402940へ(平日午前9時から午後5時まで)。

27、28日 異業種連携事業
会津地方の9企業・団体

羅羅屋、道の駅あいづ湯川・会津坂下、会津中央乳業など第2回ふくしま産業賞を受賞した会津地方の全9企業・団体は27、28の両日、道の駅あいづ湯川・会津坂下で初の異業種連携事業を開催する。会津に根づくものづくりや食の魅力を発信する。



企業の誇り間近に

福島銀行
バスツアー



牛乳を飲み比べする参加者＝会津中央乳業

逸品に驚き、感動

会津中央乳業

道の駅湯川坂下

羅羅屋

参加者約四十人は福
島市と郡市でそれ
れバスに申し、会津
会津中央乳業を訪れ
初めに会津坂下町の
方面に出発した。

瓶詰牛乳営業部から
「こぐ」にこだわっ
た乳づくり、おおい
牛乳の飲み方の説明
を受けた。同社の五
種類の製品を飲ませ
た上、島市の無農薬
漬物さんさほし、味
や香りが違ったとそれ
ぞれのおいしい驚い
ていた。

湯村の道の駅あい
づ湯川・会津坂下で
は、神田武直町長が地
場のおいしい物をお
りそろった施設説明
を行った。一行は湯川
産のヨシヒカやニシ
ンの山椒漬かなど、会
津地の食材をふんだ
んに使った特製弁当を味
わい、アスパラガスや
キヌワなど新鮮野菜

アスパラガスと新鮮野菜を買い求める
参加者―道の駅あいづ湯川・会津坂下



福島銀行が八日に実施した「答へよう！経済・産業」も、ついでに「ふくしま産業」の受賞企業・団体を巡るツアーで、企業のこだわりを体感した参加者は福島の商品を再発見するとともに、古里に根づく企業の魅を発信していく意識を高めた。企業も受賞を機に生まれた絆を生かし、地域を元気にしようと誓った。

産業の現場人気

ツアー企画広がる
県内では産業の現場を見て回る
ツアーを企画する動きが広がって
いる。会津若松市のアールエイチ
企画などは二十一日、会津の魅力
発見バスツアーを行う。第二回ふ
くしま経済・産業・ものづくり賞
(ふくしま産業賞)を受けた企業
などを巡る。

を棄した。岡田君から参加した農業者佐藤正春さん(左)は月曜に奥へおつた道の駅「国界あかつきの郷」と道の駅いづみ湖川・会津坂下駅比べようというツアーで来訪した。

「会津の郷が詰まており、素晴らしいと感じた。道の駅同士でも連携してほしい」と期待を寄した。

最後に会津若市にある福留屋の工場を見学した。販売現場では、佐由佳さんと橋本沙知んさんが工場内案内した。参加者は問を凝らしたオーダーメイドのランドセルの製造方法を初めて知って驚いた様子だった。郡山市の会社員先崎さつきさんは「夢を形にする立場に感動した。県内にある企業をもっと知りたくて」と作業工程をつめた。全土に特産ミランドルが贈られ、歓声が溢き起こった。

福島銀行経営企画課の戸根司さん(右)後藤美咲さんが引率した。

◇ ◇ ◇

今回のバスツアーは二月に開かれた第二回さくしま産業交流流会「福島銀行×森川英治社長と羅蘭の会」を通じて、福島銀行が地域元気づくりの一環として奉節地区を開発する「さくしま10大イベント」の環とを企画された。

同行は季節ごとに「10大イベント」を行っており、今後高い技術を持つ企業を独自の取り組みを展開する団体などを巡るアートを計画している。

■若者のものづくり、知財活用を意識醸成 (高校、大学、専門学校生)

2018年度の第4回ふくしま産業賞から高校生以上を対象に
「学生部門」を新設

2019年度の最高賞には
ノーベル化学賞を受賞した
吉野彰氏(旭化成名誉フェ
ロー)からトロフィーが授与
…2月7日表彰式

「吉野彰トロフィー」授与

県内の産業振興につながる若者の優れた取り組みをたたえる福島民報社の「第五回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)」学生部門で、最も優れた活動に、今年のノーベル化学賞を受賞する旭化成の吉野彰名誉フェロー(左)の名前を冠した「吉野彰トロフィー」が贈られる。地域づくりの担い手である若者の活動を奨励し、探究心を好奇心を育むのが狙い。今年中に受賞校を発表する。(24面に関連記事)

2019年
12月10日付
朝刊1面トップ

野の案件がそつた。
県、経済団体など共
同で審査委員会を
設け、本県ゆかりの
有識者が構成する選
考委員会で受賞校
を選定する。

吉野氏はノーベル賞
決定後の11月、日
本をめぐって福島
民報社を訪れ、同
社の高橋雅行社長
と面談し、同社の
活動について話を
聞いた。



ふくしま産業賞
ふくしま経済・産業・ものづくり賞

学生部門 最優秀に
地域づくりへ活動奨励



福島民報社は優れた事業を展開する企業・団体、個人を表彰する「第4回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(略称:ふくしま産業賞)」の応募を7月1日から受け付け。
【対象】福島県内に本社があるか、県内で主な事業を展開している企業・団体など。農林水産業の6次化の取り組みを含めた「ものづくり」全般。これまでの応募企業・団体も対象とする。
【応募・選考基準】応募書類は、応募の締め切りは

類は福島民報社のホームページからダウンロードできる。応募の際には原則として共催団体の推薦が必要。選考は一次審査と本審査があり、一次審査は主催・共催団体で構成する専門委員会、本審査は県内外の経済人、学識経験者らでつくる選考委員会で行う。

第4回ふくしま産業賞

来月1日から応募受け付け

学生奨励賞を創設

県内の未来の産業振興、地域づくりの販売、ものづくり、イベント、情報、サ
担い手である若者の意欲的な活動をた
えるため、学生奨励賞を創設する。
【対象】県内の大学、高専、短大、高校、
専門学校等の学生による活動(グループ、
個人問わず)
【表彰分野】県内の産業発展・産業創造、
地域づくりにつながる商品開発・流通・
必要となる)

2018年6月18日付
朝刊1面

■学生部門(2018年度 第4回産業賞で創設)受賞校

(11)
2019年(平成31年)2月18日(金曜日)
鳴 島 民 報
島根県新聞協会の会報

学生経営

西会津高 西高魅力発掘

(西会津)



西会津高等学校(西会津)は、2019年度から「学生経営」を推進し、生徒の自主性を引き出し、学校生活の充実を図る。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。

生徒会長の山本 大樹(さんぽん)は、「学生経営とは、生徒が主体的に学校生活に関与し、学校をより良くしていくこと。生徒の意見やアイデアを積極的に取り入れ、学校生活の改善を図る。その結果、生徒の自主性や責任感が育ち、学校生活の充実につながる」と説明している。

山本は、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。

山本は、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。

学生経営

郡山女子大・短期大学部 「しみちゃんズ」

(郡山)



郡山女子大学・短期大学部(郡山)は、2019年度から「学生経営」を推進し、生徒の自主性を引き出し、学校生活の充実を図る。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。

生徒会長の山本 大樹(さんぽん)は、「学生経営とは、生徒が主体的に学校生活に関与し、学校をより良くしていくこと。生徒の意見やアイデアを積極的に取り入れ、学校生活の改善を図る。その結果、生徒の自主性や責任感が育ち、学校生活の充実につながる」と説明している。

山本は、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。

山本は、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。その一環として、生徒会が中心となり、学校生活の改善に取り組んでいる。

[illegible][illegible][illegible]

学生会役員

「学生生活の中心となるのは、学生会だ」と、学生生活部長の佐藤 大樹(さとう だいき)さん。佐藤さんは、学生生活部長として、学生生活の中心となる学生会の運営に努めている。佐藤さんは、学生生活部長として、学生生活の中心となる学生会の運営に努めている。

会津大(金澤校後) オープンラボチーム

Openuplab農業IoTチーム

情報装置で農業支援

「農業の現場で、情報装置を活用して、農業の生産性を向上させる」と、佐藤さんは、農業の現場で、情報装置を活用して、農業の生産性を向上させる。



農園に設置したセンサーやシステムで農業をするメンバー

小高産業技術高 (南相模)
商業研究部

学生活動賞



「6次化商品で活性化」

小高産業技術高等学校は、平成10年度に創立30周年を迎える。創立30周年を記念し、商業研究部が「6次化商品で活性化」をテーマに、地域の活性化を目的として、6次化商品を開発し、販売した。6次化商品とは、1次産品を加工し、2次産品を加工し、3次産品を加工し、4次産品を加工し、5次産品を加工し、6次産品を加工した商品のことである。この6次化商品は、地域の活性化に貢献するだけでなく、学生の実践力を高める効果がある。この活動は、平成10年度の学生活動賞を受賞した。

学生員員賞

放射線課題解決探る

本校は本年度から「放射線」をテーマとした探究活動を実施。放射線に関する基礎知識や応用技術の習得だけでなく、放射線に関する社会問題や倫理問題についても学び、課題解決能力を高めることを目指している。探究活動を通じて、放射線に関する知識や技術を応用し、社会問題や倫理問題の解決に貢献することを目標としている。

探究活動を通じて、放射線に関する知識や技術を応用し、社会問題や倫理問題の解決に貢献することを目標としている。

福島高 SS部放射線班

(福島)



放射線に関する知識や技術を応用し、社会問題や倫理問題の解決に貢献することを目標としている。

放射線に関する知識や技術を応用し、社会問題や倫理問題の解決に貢献することを目標としている。

放射線に関する知識や技術を応用し、社会問題や倫理問題の解決に貢献することを目標としている。

放射線に関する知識や技術を応用し、社会問題や倫理問題の解決に貢献することを目標としている。

津市立大短期大学部
学生紹介
 津市立大短期大学部は、津市立大の前身である津市立第一高等学校に由来し、1965年に創立された。創立以来、地域社会に貢献することを目的として、実践的な教育と研究を推進し、多くの卒業生が社会で活躍している。

津市立大短期大学部
学生紹介
 津市立大短期大学部は、津市立大の前身である津市立第一高等学校に由来し、1965年に創立された。創立以来、地域社会に貢献することを目的として、実践的な教育と研究を推進し、多くの卒業生が社会で活躍している。

若者目線で地域貢献

津市立大短期大学部は、津市立大の前身である津市立第一高等学校に由来し、1965年に創立された。創立以来、地域社会に貢献することを目的として、実践的な教育と研究を推進し、多くの卒業生が社会で活躍している。



津市立大短期大学部は、津市立大の前身である津市立第一高等学校に由来し、1965年に創立された。創立以来、地域社会に貢献することを目的として、実践的な教育と研究を推進し、多くの卒業生が社会で活躍している。

古里活性化

[illegible][illegible]

★ (10)
2019年(平成31年) 1月18日(金曜日)
長 報

学生食費

「食費削減」が叫ばれている中、食生活の乱れや栄養不足が心配されている。食生活の乱れや栄養不足が心配されている。食生活の乱れや栄養不足が心配されている。

会津農林高

人とつながる会津伝統野菜専攻班

伝統野菜の普及に力

会津農林高等学校(会津若松市)の伝統野菜専攻班のメンバーが、伝統野菜の普及に力を入れている。伝統野菜の普及に力を入れている。



伝統野菜の普及に力を入れている。伝統野菜の普及に力を入れている。伝統野菜の普及に力を入れている。

伝統野菜の普及に力を入れている。伝統野菜の普及に力を入れている。伝統野菜の普及に力を入れている。

[illegible]

学生英会員

「街中周遊バス」の企画・運営に協力する学生英会員の姿。バスは、学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。

福島大

経済経営学部 西田ゼミ

街中周遊バスを企画

「街中周遊バス」の企画・運営に協力する学生英会員の姿。バスは、学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。



「街中周遊バス」の企画・運営に協力する学生英会員の姿。バスは、学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。学生英会員の企画・運営で、街中を周遊する。

◆企画ゼミ◆

- ▷教授：西田 三郎（平成25年 6月）
- ▷ゼミ生：西田 三郎（平成25年 6月）
- ▷学生英会員：西田 三郎（平成25年 6月）
- ▷協賛：福島県学生会（平成25年 6月）
- ▷協賛：福島県学生会（平成25年 6月）
- ▷協賛：福島県学生会（平成25年 6月）

[illegible]

■まとめ(ふくしま産業賞)

実施概要

ふくしま産業賞

2015年度に創設。「挑戦
世界一の産業県ふくしま」を
第1回表彰式で宣言し5年目

表彰

交流会(受賞同士マッチング)

セミナー・シンポジウムの開催

受賞企業による販売・PRイベント開催提案・協力

県や金融機関と連携した受賞企業PRイベント提案・協力

紙面・Webによる企業・学生の事業、製品紹介

効果

企業・学生の生産活動意欲向上
企業や学生と地域(住民)の接点づくり
受賞企業同士の連携事業増加
若者の地元就職機会の創出
企業・若者の知財活用等意識啓発

ふくしま
独自の
地域づくり

■産業賞から派生した知財関連事業・協力

■ 日本弁理士会と連携(事業)・・・第1回知財広め隊セミナーの設営、運営、集客(2017年7月19日、郡山市)



パネル討論に臨む(左から)渡辺、小松、高橋、丹治、湯井、水野の各氏

日本弁理士会

知財有効に生かして

全国トップ 郡山でセミナー

中小企業が特許や商標などの知的財産(知財)の有効性を理解を深める「知財広め隊セミナー」は十九日、郡山市のホテルハイツで全国トップを叩きつけた。知財は企業の競争力向上に有効な武器。参加者は講演やパネル討論を通じて知財の保護や活用を学んだ。

郡山市のフロンティア・ア・ラボの発起人、社長は研究開発に集中する企業に知財の重要性を説き、特許取得は競争力向上の鍵と述べた。また、特許取得のハードルは高くないと強調し、知財の活用は企業の成長に不可欠だと述べた。

活用的重要性紹介 パネル

東北の成功事例から知財の重要性を説いた。東北の成功事例から知財の重要性を説いた。東北の成功事例から知財の重要性を説いた。

来場者に「ブラ容器」



小松氏(小松技術士事務所)の特許活用。小松氏は、いわき市の小松技術士事務所(小松技術士事務所)の特許活用について講演した。小松氏は、特許を活用して製品の競争力を高めることが重要だと述べた。



基調講演する佐藤氏。佐藤氏は、知財の活用が企業の成長に不可欠だと述べた。また、知財の活用は企業の競争力向上に有効な武器だと述べた。



企業発展に知財不可欠。佐藤氏は、知財の活用が企業の成長に不可欠だと述べた。また、知財の活用は企業の競争力向上に有効な武器だと述べた。

2017年
7月20日付
3面トップ

「創生 ふくしまの産業」は「知財広め隊」の一環として、七月十九日のホテルハイツ(郡山)で第一回をトップに十九、三十年度に四十七都道府県の約百五十所を巡る。各地の中小企業に知財の有効性を広め、地元の特許士と知財に関わる団体との接点を提供する。当日は佐藤氏が基調講演。知的財産権と弁理士、特許や実用新案、商標、著作権などの知的活動により生み出された創作やアイデアを創作者の「財産」として保護し、創造意欲を刺激し、弁理士は知財権を取得しようとする企業や個人を代理し、特許庁への手続を行う。知財権の取得・侵害や製品を模倣された際の対処法など知財全般に助言する。



日本弁理士会は県内の中小企業に特許や商標意匠などの知的財産知財の戦略的な活用を助言し、事業拡大や業績向上を促す。七月に郡山市で全国トップを叩きつけた無料セミナーを開き、パネル討論などを通じて知財戦略の利点やノウハウを伝え、専門家との意見交換の場も設ける。独自の技術や製品を生かして下請けからの転換を目指す企業の経営体質強化につなげ、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの産業復興を後押しする。(3面に関連記事)

日本弁理士会

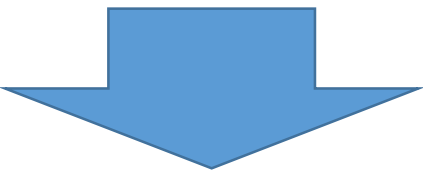
知的財産活用を促進

郡山で来月セミナー 産業復興後押し

を呼んだ小説「下町口」活用方法を紹介する。パネル討論では知財戦略をテーマに、開発段階から戦略的な知財活動や支援制度のイノベーション(郡山市)、県の代表らが海外展開士会や発明協会など専門知識を持つ関係者から来場者の相談に応じる。福島民報社は盛衰の活動を紹介する。意欲的な企業には理士会が特許の出願手続きなどで支援を継続する。六日、県庁で記者会見した渡辺敬介会長は「中小企業の復興と再生に知財の活用が不可欠。復興士会の福島を元気にしたい」と

2017年6月7日付 朝刊1面トップ

セミナーでは想定を超える約250人が集まり、知的財産の有効性を再認識



福島県内の知財
活用の動きがここから加速

■特許庁事業(啓発事業を受託) 2018年度セミナー3回

2018年度 郡山セミナー

知財で本県活性化

総括 産学官金の連携重要



「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見を交わす(左から)佐藤、林、横山の各氏

特許庁の福島知財(知財産)活用プロジェクト第2弾で総括となるセミナー「福島における知財活用の進展(医療、そして)」は、6日、郡山市の郡山商工会議所で催された。二つのパネルディスカッションを通じて、本県発展には知財キーワードにした産学官金による連携が重要だと総括した。

一部は「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」をテーマに意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

第二回ふくしま産業振興基金助成事業として、福島県民報社が受けた「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

活用プロジェクト 郡山で第3弾セミナー



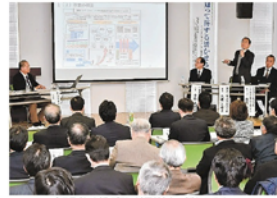
「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

2018年度 いわきセミナー

復興支える人材育て 知財で浜通り活性



知財×教育×経営などについて意見を交わす(左から)佐藤、小松、大塚、草野の各氏



知財×環境・エネルギーなどについて意見を交わす(左から)小林、庄司、台、石巻の各氏

復興支える人材育て 知財で浜通り活性

特許庁の福島知財(知財産)活用プロジェクト第2弾で総括となるセミナー「福島における知財活用の進展(医療、そして)」は、6日、郡山市の郡山商工会議所で催された。二つのパネルディスカッションを通じて、本県発展には知財キーワードにした産学官金による連携が重要だと総括した。

一部は「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」をテーマに意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

第二回ふくしま産業振興基金助成事業として、福島県民報社が受けた「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

福島知財活用プロジェクト 第3弾の概要

テーマ:「福島における知財活用の進展(医療、そして)」(仮)

開催日: 3月6日(水)

場所: 郡山市・郡山商工会議所

時間: 午後1時30分から午後4時30分

▶パネルディスカッション第1部「思い切り医療関連産業！～知財活用の有効性～」(仮)

パネリスト

- ・佐藤 隆夫 元日本弁理士会長
- ・服部 隆弘 エネルギー・エンジニアリング
- ・小松 孝 元日本弁理士会長
- ・大塚 孝 元日本弁理士会長
- ・草野 孝 元日本弁理士会長

※午後1時 ショートセミナー 知財とは

来月6日、郡山で第3弾

特許庁の福島知財(知財産)活用プロジェクト第2弾で総括となるセミナー「福島における知財活用の進展(医療、そして)」は、6日、郡山市の郡山商工会議所で催された。二つのパネルディスカッションを通じて、本県発展には知財キーワードにした産学官金による連携が重要だと総括した。

一部は「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」をテーマに意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

第二回ふくしま産業振興基金助成事業として、福島県民報社が受けた「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

2018年度 会津若松セミナー

知財で会津活性化 「IT企業の起業」展望



知財活用について意見交換する(左から)佐藤、久田、服部、岡、金山の各氏

知財で会津活性化 「IT企業の起業」展望

特許庁の福島知財(知財産)活用プロジェクト第2弾で総括となるセミナー「福島における知財活用の進展(医療、そして)」は、6日、郡山市の郡山商工会議所で催された。二つのパネルディスカッションを通じて、本県発展には知財キーワードにした産学官金による連携が重要だと総括した。

一部は「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」をテーマに意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

第二回ふくしま産業振興基金助成事業として、福島県民報社が受けた「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

31日、いわきで第2弾

特許庁の福島知財(知財産)活用プロジェクト第2弾で総括となるセミナー「福島における知財活用の進展(医療、そして)」は、6日、郡山市の郡山商工会議所で催された。二つのパネルディスカッションを通じて、本県発展には知財キーワードにした産学官金による連携が重要だと総括した。

一部は「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」をテーマに意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

第二回ふくしま産業振興基金助成事業として、福島県民報社が受けた「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

「思い切り医療関連産業！～知財活用有効性～」を題材に意見交換した。佐藤、林、横山の各氏

■ 特許庁事業(2019年度 4回のセミナー、ワークショップ うち2回で弁理士会と連携)

白河市での
ワークショップで
弁理士6名が
講師に。
ものづくりが
テーマ
=2019年
11月28日付

白河で「アイデア・技術をビジネスに」 近藤社長(コンド)、赤津社長(シッ)が講演



知財発掘のポイントを語る近藤社長

知財の有効活用について解説する赤津社長



知財の活用方法について意見を
交わしたワークショップ

次回セミナーは
1月22日郡山で
次回のセミナーは来
年一月二十二日、郡山
市内で開催する予定。
航空・宇宙産業をテ
マに取り上げる。時間
は未定。今後、参加者
の募集を開始する。問
い合わせは事務局(福
島民報社企画推進部
「福島知財活用プロジ
ェクト」係) 電話0
24(531) 416
1へ。

特許庁が福島支援を
目的に展開している福
島知財活用プロジェクト
のセミナー「アイデ
ア・技術をビジネスに
つなげる」は二十七
日、白河市立図書館で
開かれた。「中通り」
ものづくりをテーマ
に、参加者が知的財産
の活用方法について
(知財)を実務に生か
すための知識を習得し
た。市内の企業や行政
などから約六十人が参
加した。特許庁職員が
セミナーに続き、コン
ド電機(浅川町)の近
藤一社長が「自社ア
ラウンド製造の道」シ
ンテック(いわき市)
の赤津和三社長が「医
療機器産業への挑戦」
と題して講演した。
近藤社長は同社の知
財の活用事例などを説
明し、「特許のヒント
赤津社長は他団体の
特許出願の内容や特長

知財生かす知識学ぶ



「会津×IT×伝統産業」テーマ 実践策など探る



特許庁が福島支援を
目的に展開している福
島知財活用プロジェクト
のセミナー「アイデ
ア・技術をビジネスに
つなげる」は十一月
会津若松市の会津若松
市立図書館で開かれ、
会津若松市長が「伝統
産業×知財」と題して
講演した。特許庁職員
がセミナーに続き、
郡山は来年1月22日
次回のセミナーは来
年一月二十二日、郡山
市内で開催する予定。
航空・宇宙産業をテ
マに取り上げる。時間
は未定。今後、参加者
の募集を開始する。問
い合わせは事務局(福
島民報社企画推進部
「福島知財活用プロジ
ェクト」係) 電話0
24(531) 416
1へ。


若松で福島知財活用セミナー

会津若松市での
ワークショップで
弁理士6名が講師
ITと伝統産業がテーマ
=2019年
11月12日付

■特許庁事業（2019年度、残り2回）

2019年度最終セミナーは今年1月22日に郡山市で開催。
ノーベル化学賞受賞の吉野彰氏が講演を快諾
「はやぶさ2」に参画した県内企業、大学の
パネル討論も開催。1日で定員に達し、
約500人規模で開催予定

特許庁の「福島
活用プロジェクト
今年度最終セミナー
「ふしま×知財
来年1月22日
二時から、郡山市
公民館で開かれる



来月、郡山の特許庁セミナー


「はやぶさ2」参画企業や大学

特許庁 福島知財活用プロジェクト セミナー 「ふくしま×知財」スクジュール	
12:30	開場
13:00	併催セミナー 「知財とあわせて考える標準化戦略」(東北経済産業局)
14:00	開会
	主催あいさつ 主催あいさつ 講演 パネルディスカッション
	主催あいさつ 内閣府連絡室 主催あいさつ 宮川篤彦 福山市長 講演 松永博司 特許庁長官 パネルディスカッション 「はやぶさ2」の成功とふくしまの力
	古町龍治 技術開発本部開発統括部シB事業推進部長 佐野彰彦氏 NECプラットフォームズ 生産部シエス戦略室生産革新部シエスエキスパート・兼生産部シエスエキスパート・兼技術部シエスエキスパート 野地英明氏 JAXA 宇宙科学研究所宇宙飛行員・宇研究系部長 佐野彰彦氏 モデレーター 会津大学理工情報科学部研究センター・教授 中田成氏 特別講演 「リチウムイオン電池がつくる未来」 旭化成名誉フェロー 古野彰氏
17:20	閉会(予定)

希望者はQRコードからセミナーの申し込みフォームにアクセスし、必要事項を入力する

技術、開発力を紹介

特許庁の「福島知財活用プロジェクト」の今年度最終セミナー「ふくしま×知財」は、来年一月二十二日午後二時から、郡山市中央公民館で開かれる。ノ



吉野彰さん

吉野さん特別講演

来月22日郡山特許庁セミナー

受賞後、県内初

「リバー化学賞を受賞した旭化成名誉フェローの吉野彰さんが特別講演する。リチウムイオン電池の誕生秘話などを通し、本県の産業復興を後押しするメッセージを発信する。」(32面に関連記事)

同片が十二日発表し、聴講の受け付けを始めた。吉野さんは「リチウムイオン電池がつくる未来」と題して約一時間講演する。県内講演は受賞後初めて。スウェットホールで八日に行われた「リバー化学賞の記念講演で吉野さんは、「持続可能な社会は近い将来、実現できる。リチウムイオン電池がその中心的な役割を果たさう」と展望した。十一月の特別講演に先立ち「ネルディス・カッションを催す。帰還航路に入った小惑星探査機「はやぶさ2」を連航している宇宙航空研究開発機構(JAXA)や参画した県内企業・大学の代表が、主要ミッションを成功に導いた技術に心を寄せている。」と述べてい

https://fun
ushima-id.go
.jpのQRコードか
ら申し込む。掲載
の申し込み用紙を
印刷し、FAX
024(3663)
4343でも受け付
ける。問い合わせ
は事務局の福島
民報社企企画推
進部 電話024(5
4161へ。

完成間もない南相馬市の 福島ロボットテストフィールドで開催

浜通り×ロボット 語る

原町で第1弾知財セミナー

関連企業代表ら討論



知財活用の在り方について話す(右から)
宇田、馬場、上荒磯、増山、赤穂の各氏

「浜通り×ロボット産業」をテーマに二十五日に南相馬市原町区の特許庁の「福島知財活

用プロジェクト・アイデア・技術をビジネスに「つなげる」の第一弾はセミナーでは、地元経営者らが知的財産・知財を生かした新たなビジネス創出や経営意識の安定などに向けたイベントを考えた。

二部構成。第一部は講演で、フィールドの各施設や福島・国際研セミナーは南相馬市のほか、県内三会場で開催。会津若松市の会津松岡リゾートホテルの市立図書館で十一月十七日、郡山市で来年一月下旬に開催する定。

研究都市（インバシオン・コース）構想、特許庁の施策などを知した。フィールドの細田慶信副所長、特許総務部普及支援課の遠山嘉孝支援企画班支援企画一係長、特許の増山達也事業ビジネスプロデューサーがそれぞれ講演した。県産業振興セクターは地域を支援自己されている産業に無当を当てる。会津若松はIT産業と伝統産業、白河では製造業を中心としたものづくりの産業、郡山市では航空宇宙産業をテーマに取り上げる。

若松、白河、郡山で開催
11月11日から12月1日

技術支援部 郡山市
を拠点に県内企業の事業創出を支援している増山氏は「支援を活用し、売れる商品をつくる」ことが重要。それにより知財の価値を高め、**第二部**と強調した。

第三部のパネルディスカッションでは、ロボット関連企業の代表者3人が今後の知財活用の在り方などについて意見を交わした。

タジマモーターコーポレーション会長特命担当新事業開発室の上荒磯博彦室長、アイザック

開催 11月から
来年1月

詳しくは専用サイト
(<https://fukushima-ip.go.jp/>)。問合先は事務局 福島県知事企画推進部「福島県知活用プロジェクト」(例
電話0242(6631)46)へ。

ク総務部の馬場法孝担当課長、イムス支店の宇田孝(東京支店の宇田丞がバネリストとして増補した。宇田氏は「知財を適切に保護・活用していくには併理も専門家の支援を受けることも重要だ」と語った。

増山氏がコメントした。特許総務部普及支援課赤堀州一郎企画調査がモデレーターを務めた。

第一部に先立ち、主催者を代表して米田健三特許庁総務部長、門馬和夫南相模市長がいざなった。会場がいっぱいだった。百人の自治体や地元企業の関係者が聴講した。

特許庁5年度「知財の周知 啓発に向けたミナ」を県内三会場で開く。今年度はさらに事業を伸展させ、企業内の知財活用人材の育成を目指す。

特許庁は昨年度、知財の周知・啓発に向けたセミナーを県内三会場で開いた。今年度はさらに事業を伸展させ、企業内の知財活用人材の育成を目指す。

術力などを解説する。

セミナーは午後二時に開会し、午後五時半ごろまで。聴講無料で定員三百人。特許庁は企業、学生に広く聴講を呼び掛けている。希望者は用ウェブサイ
望書は<http://fukushima-ip.go.jp/q&road>から申し込む。掲載の申込用紙を印刷し、ファクス0241(6600)4343にも受け付ける。問い合わせは事務局の福島県報社企図推進部 電話024(531)4161へ。

■知財関連話題の積極周知(報道)

・ものづくり日本大賞最高賞の小松技術士事務所の小松所長は2019年度の第5回ふくしま産業賞「福島民報社賞」(2位)

・経産大臣賞の大七酒造の太田社長は2015年度の第1回ふくしま産業賞で知事賞(最高位)を受賞

＝2018年1月16日付 朝刊1面トップ



小松氏の特許技術を活用した食器—昨年11月、フランスのレセプション

※ものづくり日本大賞製造・生産現場の中心を担う人、伝統的・文化的な技を支えてきたベテラン、今後を担う若者などものづくりに携わる各世代のうち、特に優秀と認められる人材を顕彰する政府の事業。経済産業省、国土交通省、厚生労働省、文部科学省が連携し、2005年から隔年で開催している。



太田英晴氏 小松道男氏



県内からの最高賞受賞は、第四回の斎栄織(郡山市)に続き三度目。福島のものづくりレベルの高さが、改めて全国に示された。今回、内閣総理大臣賞を受けたのは小松氏を含め二十四件七十一人。小松氏は植物を原料としたプラスチックの成形技術を生み出した。国内外で多数の特許を取得している。環境に優しい自然由来のプラスチック製品が世界的に普及するきっかけになるとされ、昨年十一月には、フランス・リヨンで開かれた天皇誕生日祝賀レセプションに自身の特許を基に生産した食器を出展し、注目を集めた。小松氏は自らの知的財産を生かし、国内企業と協力して商品開発を進めており、子ども用食器を製造販売している愛知県新城市の豊栄工業の美和敏弘常務

ものづくり日本大賞

小松氏

(いわき・小松) 技術士事務所所長

最高賞

P.29

太田氏(大七酒造) 経産大臣賞

製造業の振興に貢献する人材を表彰する政府の「第七回ものづくり日本大賞」が十五日、発表され、最高賞の内閣総理大臣賞にいわき市の小松技術士事務所所長の小松道男氏(五七)が選ばれた。環境保護に注目が集まる中、植物由来のプラスチックの成形技術を開発し、高い評価を得た。内閣総理大臣賞に次ぐ経産大臣賞「伝統技術の応用部門」に、二本松市の大七酒造社長の太田英晴氏(五七)が選出された。(25面に関連記事)

料としたプラスチックの成形技術を生み出した。国内外で多数の特許を取得している。環境に優しい自然由来のプラスチック製品が世界的に普及するきっかけになるとされ、昨年十一月には、フランス・リヨンで開かれた天皇誕生日祝賀レセプションに自身の特許を基に生産した食器を出展し、注目を集めた。小松氏は自らの知的財産を生かし、国内企業と協力して商品開発を進めており、子ども用食器を製造販売している愛知県新城市の豊栄工業の美和敏弘常務

くしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)で知事賞を受けている。総理大臣賞22日東京で表彰式ものづくり日本大賞の内閣総理大臣賞の表

■ 知財関連話題の積極周知(報道)

特許庁が東北で初めてビジネスプロデューサー派遣事業を2019年度、福島県で展開。
有識者委を設置。

知財活用へ有識者委

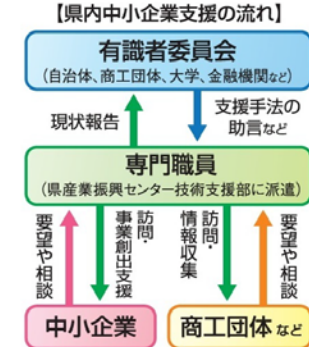
県内企業下請け脱却支援

特許庁は六月にも県内の自治体や商工団体、大学、金融機関などと連携した有識者委員会を設置し、県内中小企業が下請け型から知的財産(知財)を生かした自社開発型に転換できるよう支援する。県産業振興センター技術支援部(郡山市)に派遣する専門職員が事業所を訪問して集めた知財の活用状況などの情報を分析。支援対象を選び、新事業創出に向けた方策などを検討、アドバイスする。専門職員の派遣は東北地方では初めて。

を保有している中小企業などを訪れ、知財の活用状況のほか新事業創出に意欲がある事業者や経営上の課題を抱える企業などの情報を集約する。有識者委員会は職員からの報告を基に、製品化や販路拡大の方法など具体的な支援策を検討する。委員会の検討結果を踏まえ、職員は対象企業と協議しながら事業化に結びつける。設備投資などが必要な場合は、金融機関などの仲介役も担う。知財を保有する企業同士のマッチングにも力を入れる。

県内には高い技術力を持つ中小企業が多くある一方、知財が有効に活用されているかは明確でない。同庁は職員がきめ細かく地域を回り情報収集をすることで実情を把握し、実行性の高い支援につなげたい考え。

東北初、専門職員派遣



福島知財活用プロジェクト事業創出実証研究事業の一環で、支援の概要は(図)の通り。専門職員は一人、知財や起業、経営などに精通したコンサルタントに精通したコンサルタントの。職員は県内各地の商工関係団体や知財

県によると、県内の中小企業は部品の加工や製造など大手企業の下請けに入っている事業所が多い。経営基盤の安定を図り、本県産品のさらなる振興につなげるには自社技術の開発、技術を生かした製品製造が課題だ。このため、県も二〇一七

知財ノート

知は財をつくる

125

日本の戦後のイノベーション(技術革新)を〇一六(平成二十八)年に発明協会がアンケートで選びました。それを見ると日本のすごさを改めて感じます。

生活、世界を変えた

トップ10は内視鏡、即席機、ヒシロン、ファスナー、ラーメン、マンガ・アニメ、新幹線、トヨタ生産方式、ウォークマン、ウォシュレット、家庭用ゲーム機、同ソフト、発光ダイオード、コシヒカリ、回転寿司、公

日本イノベーション100選④

装置、レトルト食品、クオーツ腕時計、ブラウン管テレビ、電子顕微鏡、産業用ロボット、コンビニエンスストアなど三十二件です。安定成長期一九七五～一九九〇年では産業繊維材料、移動電話、家用ビデオ、宅急便、イメージセンサ、リチウムイオン電池、スーパーコンピュータ、全自動横

創成国際特許事務所会長／弁理士 佐藤辰彦
メール kansou@sato-pat.co.jp



感想をお寄せください

県内の知財活用啓発のため元日本弁理士会長の佐藤辰彦氏(福島市出身)にコラム執筆を依頼。2017年8月から毎週掲載。120回を越え継続中

来月にも特許庁

■ 知財関連の積極周知(報道)

県内企業支援へ新組織

知財活用 商談仲介や実務指導

日本弁理士会

特許などの知的財産(知財)に精通した全国の弁理士でつくる日本弁理士会は「福島プロジェクトワーキンググループ(WG)」を組織内に新設した。本県産業の復興支援強化が狙いで、同会が地域を絞り込み、域内の業者をサポートする初の取り組み。自社製品を開発しようとする中小企業が求める技術を開発し、交渉先を仲介する。県内企業の実務担当者には知財の保護・活用に関する実践的な指導を行い、専門性の高い人材を育成する。(2面に関連記事)

日本弁理士会は県内の知財への関心が高まりつつある現状を受け、さらに一歩踏み込んだ支援に乗り出す。個々の企業に対し、知財の具体的な出願方法や製品化を見据えた活用策をサポートする仕組みを構築する。

福島プロジェクトWGは清水善広会長を本部長とする地域知財活性化本部内に設けた。組織概要は「図」の通り。指導内容の考案やセミナーの講師、マッチング支援を担う三つのグループに分かれ、県内の弁理士を含め、最終的に二十人程度が携わる見通しだ。知財活用を推進する県や特許庁とも連携する。

マッチング事業は、担当弁理士が十二月ごろから自社製品の開発などを目標としている中小企業を訪ね、製品化に必要な既存技術

や部品などの要望を把握する。国内の特許情報や公開している工業所有権情報・研修館のデータベースから支援企業の求めに見合う技術を探し、交渉先となり得る企業を紹介する。

特許庁によると、国内で登録されている特許件数は昨年末時点で約二百五万四千件に上る。中小企業が膨大な特許情報から必要とする他社技術を見つけ、単独で交渉するのは容易ではない。

同会によると、行政による従来のマッチング支援策では知財を既に所有している企業から他社への技術提供の円滑化に軸足を置く場合が多い。新製品の開発や販売を目指す中小企業の課題解決には必ずしも直結しない面があったため、より効果的な支援策を探ってきた。

経営戦略的な観点から知財として保護すべき技術・製品の見極めや出願準備に関する

福島支援に特化したワーキンググループ新設を報道

日本弁理士会の福島ワーキンググループ長

大沢 豊氏に聞く



WGの役割などについて語る大沢氏

成功事例積み上げる

「本県の支援に特化したWGを新設した。『県や市町村、商工関係団体、マスコミなどが一体となり、知財の普及・啓発に取り組んでいる地域は全国的にも珍しい。機運は着実に高まっている。こ

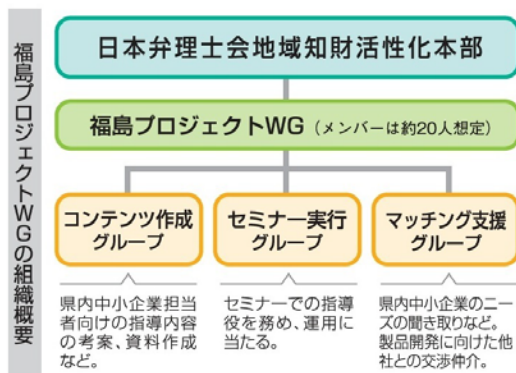
うした勢いを、さらに加速させ産業の活性化につなげたい」

「日本弁理士会として、これまでも支援をしてきた。『知財の基礎を伝えるセミナーなどを開催し、多くの県民に聴講してもらった。より高いレベルを求める企業関係者も出て来ており、WGによる事業展開を拡大していきたい」

開が必要になった。手探りの部分もあるが、成功事例を積み上げて全国に広めていく」

「来年度以降の見通しについて。『企業間のマッチングと中級者向けのセミナーを成功させることが今年度の目標だ。今後については未定だが、可能であれば事業を拡大していきたい」

2019年
8月15日付
朝刊3面



2019年8月15日付 朝刊1面トップ

元気な産業が数多く頑張っています
ふくしまを見に来てください

ご清聴 ありがとうございました

福島民報社 鞍田 炎